

3-29

庶発第392号 昭和31年7月4日

内閣総理大臣 鳩山一郎 殿

日本学術会議会長 茅 誠 司

皆既日食の観測計画について(要望)

1958年(昭和33年)10月12日南太平洋において皆既日食が観測されます。

この皆既日食の観測の実施は、科学の進歩に多大の貢献をするものであるので、関係各機関は観測を実施する希望ならびに計画をもち、本会議日食研究連絡委員会が中心となつて総合的にその計画を検討中であります。

国際天文学連合から送付された資料その他によれば、この皆既日食を観測するには、トケラウ(Tokelau)諸島およびスワロフ(Suvorov)諸島がもつとも適地であると考えられます。

現在のところ、約20名の観測隊を派遣し、約30日間現地に滞在させたい希望がありますが、具体的計画をたてるためには現地政府の許可を得ることが必要であり、また、観測船の回航の予定計画がたてられることが望ましいこととあります。

ついては、政府においてこのことについて適当な措置を講ぜられるよう本会議第112回運営審議会の議により、要望いたします。

3-30

昭和31年10月27日

日本学術会議第22回総会

わが国の政治のあり方についての日本学術会議の見解に対し、国民の支持を要望する声明(声明)

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信に立つて、科学者の総意の下に、わが国の平和的復興、人類社会の福祉に貢献し、世界の学界と提携して学術の進歩に寄与することを使命として、創立以来わが国科学の振興のためにつくして来たが、特に第3期においては、わが国科学研究の長期的な見通しを樹立するために努力した。その結果にかんがみると、特にわが国の政治が、その時々的情勢にとられることなく、科学的根拠に立つた長期的な見通しの上に行われることの必要性を痛感せざるを得ない。われわれは、ここにその観点からさしあたり重要な諸問題に関し政府に申し入れを行つてきたが、ひろく国民がわれわれの見解を支持されんことを要望する。

3-31

庶発第666号 昭和31年11月5日

内閣総理大臣 鳩山一郎 殿

日本学術会議会長 茅 誠 司

原子力に関する科学技術の基礎研究について(要望)

標記のことについて、本会議第22回総会の議により、ここに下記のとおり要望します。

記

わが国の原子力開発が、日本学術会議の提唱した三原則に沿い、原子力基本法をより所とし、原子力委員会を中心として進展しはじめたことはよろこばしい。

しかしながら、その志向するところが、ややもすれば直接的応用に走り、基礎研究に力が十分注がれていないうらみがある。原子力の利用が将来のものであり、未知の技術分野の開拓に待つところが多いことにかんがみ、大学等における原子力に関する科学技術の基礎研究に対しては原子力開発の一環として、一層広範強力な促進方策をとられたい。

ただし、大学の自治を尊重し、原子力関係以外の科学研究との適当な均衡を失わないよう特に注意されたい。

3-32

庶発第671号 昭和31年11月7日

内閣総理大臣 鳩山一郎 殿

日本学術会議会長 茅 誠 司

農業技術の振興上農業高等学校の科学教育を強化することについて（要望）

標記のことについて、本会議第22回総会の議により、ここに下記のとおり要望します。

記

わが国の農業技術は、最近科学的水準においては相当高いところに到達しているが、関係の科学の急速な進歩にともない、農業技術も常にその水準を高め内容を複雑化している。この農業技術を農業の実際面に反映させる対策としては種々考えられるが、農業自営者と初級技術者との養成を目的とする全国多数の農業高等学校（林、水産を含む。）における技術教育の振興こそ、その根本をなすものと考えられる。

しかるに、これら農業高等学校の現状は、この点に関して極めて不十分であつて、特に教員に対し絶えず適切な科学技術の研修を行う措置を講ずることが、今日極めて緊要である。

よつて、政府においては次の諸事項について適切な処置を講ぜられたい。

(1) 農業高等学校の教員研修制度の拡充強化を計ること

わが国を数地区に分け各地ごとに研修センターを設けるか、あるいは国立または都道府県立の農業研究機関の協力により、教員をして常に新しい農業技術の習得を行わせるべきである。

(2) 農業高等学校教育と普及事業との提携を密にすること

農業高等学校教員を農林省及び都道府県の普及事業に参加できる措置を講じ、それによつて教員に技術の実際面に接触する機会を多くさせるべきである。

(3) 文部省における農業教育行政を担当する部局を拡充強化すること

3-33

庶発第672号 昭和31年11月7日

内閣総理大臣 鳩山一郎 殿

日本学術会議会長 茅 誠 司

東南アジア地区へも科学アタッシェを派遣することについて（要望）

標記のことについて、本会議第22回総会の議により、ここに下記のとおり要望します。